



る う て る



2017年
10月
No.838

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区山谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教「絶えず新たに開始する教会」

日本福音ルーテル大江教会、鹿児島教会、阿久根教会 牧師 立野泰博

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」
(テモテへの手紙 一 3:15)

「牧師は総辞職せよ。私の人生で衝撃を受けた言葉の一つです。」

「自分たちが幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

事務局勤務だった頃、日本キリスト教連合会主催の宣教講演会に出席しました。講師は牧師、宣教師、信徒(ビジネスマン)が集まり、福音宣教の拡大を目指しキリスト者の人口比1%越えを目指している信徒リーダー達でした。テーマは「日本のキリスト教界の現状と展望」。副題に「エリヤのように、私は変わる、あなたも変わる、日本が変わる」、ユニークで力強い講演でした。

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」



1520年刊「キリスト者の自由」



指しました。まず教会集会所をカフェスペースに。扉は24時間オープン。様々な楽しいカフェ企画。毎日の朝礼拝。礼拝堂を聖なる空間に変える。礼拝に来られる方が毎週何か変わっていると云われます。絶えず新しく始まっている教会でありつづけてきました。とにかく外へ向けての宣教を最優先事項にしてみました。結果はどうぞ大江教会にいらしてください。

「しかし、一番大切にしたいのは「み言葉」と「祈り」です。宗教改革500年にむけて何をするか。まずは「聖書のみ」に立ちました。礼拝堂にある講壇用聖書の通読を始め、3年間で3回の通読。毎日3章ずつ礼拝堂で読み続けています。まもなく3回目が終わります。さらに礼拝堂で祈る。毎日が誰かが礼拝堂で祈る。これだけのことで教会は改革されていくのです。物置状態であった礼拝堂が聖なる空間となります。」

「宗教改革500年の10月をむかえました。私たちの教会にとっては501年が大切です。記念にならないように。そして「絶えず新たに開始する教会」でありたい。それぞれのミッションに従って。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」



⑱【Peacemaking】

「国民を戦争に巻き込むのは、常に簡単なことだ。自分達が外国から攻撃されていると説明するだけでいい。そして、平和主義者については、彼らは愛国心がなく国家を危険に晒す人々だと公然と非難すればいいだけのことだ。この方法はどの国でも同じように通用するものだ。」これは、ナチス政権の国家元首であったヘルマン・ゲーリングの言葉として知られているものです。

「お花畑が出来るには肥料が必要。その肥料は過去の広島長崎原爆や特攻隊過去の戦争でつくられていった人の悲しとやまないの。もう一度荒地にするのは一番過去に失礼なんじゃないか。」私たちが戦争に巻き込まれない「わたし」には、悲しみを抱きつづけることが必要なのではないでしょうか。それは、いろんな意味で、泣きたくなるような気持ちを抱えて生きるということだと思います。不安を煽る言葉や排他的な言葉が飛び交う中で、私たちは、蛮勇とやる気ではなく、また、思考を停止するのでもなく、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ6:33)と教えられた主イエスの言葉を胸にとめ平和の言葉を発してきたい、と思います。そう、レヴィナスは言っています。「平和とは、ことを語ることでできる能力として生起すること。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

「自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いを知恵を、あなたに与えることができます。」

ありがとう！ 【できたしこビデオレター】

2016年4月に発生した「熊本地震」に対する、日本福音ルーテル教会九州教区対策本部「できたしこルーテル」は、これまでの歩みと活動を振り返り、世界中の皆さんから寄せられた祈りとご支援への感謝をお届けするべく、ビデオレターを作成しました。YouTubeに掲載されており、以下のURLからご覧いただけます。



※写真の通り番号がゆとりおままだが⑩の間違いでした。お詫言して訂正します(お詫言)

岩切雄太
阿久根教会・八幡教会・佐賀教会
小幡教区牧師



宗教改革500年に向けて ルターの意味を改めて考える (64)

ルター研究所長 鈴木 浩

2017年の10月になった。1517年の10月にルターが、ヴィッテンベルクという小さな大学町の教会(城教会)の北側ドアに貼り出した1枚のビラが、宗教改革の発端になった。なぜ、その場所か? 理由は簡単で、その場所がヴィッテンベルク大学の「広報掲示板」だったからである。

それでは、なぜ、その10月31日か? 同じように理由は簡単である。翌日が「主聖徒の日」(古いカトリックの呼び方では「万聖節」)だったからである。有名な聖人には特定の祝日があった(例えば、アウグスティヌスは8月28日)、1年364日、そういう聖人の祝日で満杯だった。そこで、それ以外の聖人(この場合は、亡くなった人は、すべてこの日が祝日)になっていたからである。

は、常に神から離れ、さまよい行く人々に、あの放蕩息子のように、もう一度神のもとに「立ち帰ろう」という呼びかけであった。



「女性会・被災地訪問」に参加して

東郷区女性会 岸田多希子
(田園調布教会)

仙台駅に降り立った私はかなりの緊張感を覚えておりました。私にとって震災後初めての訪問であ

ること、そして、何の働きもしてこなかった自分への後ろめたさを抱えていたからでもあります。

初めて目にした震災の爪痕は、大川小学校跡でした。廃墟といえる校舎を前に、ご自身も6年生のお嬢

さんを「くされた、語り部の佐藤さんのお話しは、本当に胸に迫るものでした。

同時に、ただ哀しみと怒りをぶつけるだけではなく

「なぜあれほどたくさんの子どもたちが命を落とさなければならなかったか」を伝えていこうとする遺族の方々の辛い思いを、涙と共に心に留めました。

公園の高台にも立ちまじり、当時テレビのニュースで流れた、あの場面。沢山の方々が、押し寄せる津波が町を飲み込むのを、なすすべもなく茫然と見つめていた、あの場所です。目の前に穏やかに広がるその土地は、また建物は少ないものの、真新しい道路が整備された、希望溢れる発展途上の造成地に見えま

今回私たちを迎えてくださった石巻と気仙沼の方々、仮設住宅で手仕事に励まれる方々など、本当に皆さんが私たちを歓迎し、温かくもてなしてくださいました。当時の様子を穏やかに語ってくださるその言葉の中にも、私の想像できない深い悲しみと心の傷があることを思います。

だろつかと考えさせられます。無力な私にできることがあるとすれば、「忘れな」ということでしょうか。そして、この経験を語り、今、心からの祈りと共に進みたいと思います。

*2017年6月20日から22日にかけて、日本福音ルーテル教会女性会連盟主催の被災地訪問が、全国から12名に大学研究者と現地支援者を加えた総勢16名で行われました。

ルーテルアワー biblestudy.jp
「ルーテルアワー」のサイト [てあなの部屋]より 一緒に帰ろう 伊藤早奈

祈り

神様、あなたに与えられている「今」というかけがえない時の中を、私たちは精一杯生きています。どうか、なんとなく過す時もある、あなたの不平や不満を抱いたまま過す日があったりもします。神様、あなたに与えられる全ても、かけがえのないものと、感謝して生きること

ができませんように。この祈りを主イエス・キリストのお名前を通して、み前にお捧げします。アーメン

「神をたたえよ。神はわたしの祈りを退けることなく、慈しみを拒まれません。」(詩編66:20)

親や目上の人に願ひ出たり、何かを買つてもらいたい時に、いつも以上に親やその目上の人の言うことを聞いたり、肩を揉んだりして

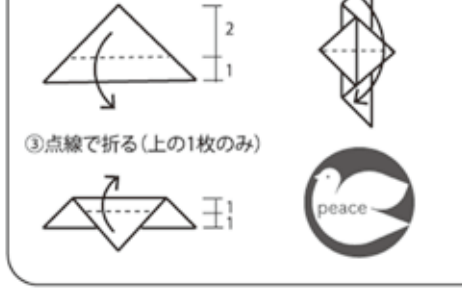
が神様のもとへ帰る。そのことがもう神様にとっての喜びなのです。そして神様のもとへ、あなたと共にいつもイエス様が一緒に帰ってください。

神様に心を向け、願いごとをするときに、私たちは何か捧げ物をしないとけないのでしょいか? 神様に祈る人はたくさんいるから、その中でも目立たない、祈りは聴いてもらえないのでしょいか?

しかし、神様に祈る時はそのような必要はありません。神様が喜ぶような何かをしなくても、あなたの心

神様に祈ること、それはあなたの心がイエス様となりなすと共に神様へと帰ることです。一生に一度だけの人もおられるかもしれません。毎回の「一回」を神様はいつも迎えてくださいます。「よく帰ったね待っていたよ。」

その時もあなたは一人ではありません。いつもイエス様があなたと一緒に帰ります。「大丈夫、一緒に帰ろう。」



11月23日にカトリック浦上教会にて行われる共同記念礼拝に平和の祈りを寄せてください。大きさ・色は問いません。左掲の手順で作成し、現地に來られる方に託す。もしくは事務局へお送りください。

2017年宗教改革500年 「カトリックとルーテルの 共同声明」に学ぶ ④-3

石居基夫
(日本ルーテル神学校校長)



【本文から】

わたしたちは神に祈ります。カトリックの者たちとルーテルの者たちがイエス・キリストの福音を共に証しし、神の救いの働きを受け入れるべく人々を招くようになることを。わたしたちは共に奉仕の務めに立つて、特に貧しい人々のために、人間の尊厳と権利を高め、正義のために働き、あらゆる形の暴力を斥けることにおいて共に奉仕に当たることのできるよう、霊の導きと勇気と力を神に祈ります。尊厳、正義、平和、和解を切に求めているすべての人々にわたしたちが近づくと、神は呼び掛けておられます。今は特に、多くの国々や社会で、またキリストにある数え切れないほどの姉妹や兄弟たちに影響を及ぼしている暴力や過激主義を終わらせるよう、わたしたちは声を挙げねばなりません。

【学び】

この声明は、単にこの二つの教会の和解と一致ということに終始せず、

むしろ、それが両教会が共同・協働して宣教の責任を担うように決意し、また両教会に属している人々に強く呼びかけている。

中心はキリストの福音を分かち合うこと。しかし、信仰への招きだけを語るのではなく、この世界に神のみこころである正義・公平・平和を実現していく務めを重く受け止め、その責任を担っていくべきことを語っている。特に、現代世界という文脈をしつかりと見つめ、今も多くの人々が差別や争いや暴力によって人間として生きる尊厳を奪われていることを課題としてい

ることがわかる。声明は、そういういのちの尊厳と正義、平和と和解を求めている人々に「近づく」ことへと神が呼びかけておられると招いている。「近づくこと」は、具体的に問題に関わり、人々の苦しみに触れるということだ。それは、この招きに応じて近づくものたちに、傷つき、痛み、哀しみや怒りをもたらすこと

でもある。それでも、そうやって共に生きることを神が求めている。福音を限られた人々の中にとどめるのではなく、貧しい人や苦しみの中にある一人ひとりへと届けること、逆にいえば、そうした人々のところへ出ていき、受け入れ、招くことを両教会、いやキリストの教会の務めとして深く見定め、信仰者を押し出しているのだ。

ことにも、難民受け入れの問題に揺れる伝統的キリスト教世界である欧米社会にとつて、この語りかけがなされた意味は大きい。現状はといえば、いわゆるポピュリズムの大きな流れは一定の限られた人々の利益にだけ結びついている保護主義・排他主義が力を得ているようだ。あのとき、多くの群衆が「イエスを十字架につけよ」と叫び出したことを思い起させる。煽動する者たちがあつたに違いないが、人間の愚かしさはい

つのも変わらない。けれども、その大きな流れが、たとえ人からあらゆる尊厳を奪い取つていこうとも神がそのいのちを愛される。それを、主の十字架の出来事が示している。だからこそ、イエスを主と仰ぐ者たちは共にこのキリストを証しするよう招かれているのだ。

ぶどうの木につながって 「えきゅぷろ」報告

谷口健太郎
(市ヶ谷教会)

8月19日、カトリック成城教会において、カトリック教会、日本福音ルーテル教会、日本基督教団の青年有志から成るエキュメニカルプロジェクト実行委員会

の主催で、「えきゅぷろ」が開催された。ここ数年、教派を超えた青年の交流が盛んなことを背景に、「宗教改革500年に何か一緒にやりた

いね」と、ある種軽いノリで始まったこの企画。気が付けば、当日の参加者は20〜30代の青年を中心に、120名を越えていた。

福島一基神父(カトリック千葉教会)、西千葉教会、浅野直樹牧師(市ヶ谷教会)、堀川樹牧師(日本基督教団亀戸教会)を司式者としてお招きして、各教派の特徴を融合した合同礼拝が守られた。式文から音楽まで全てを企画するのは大きなチャレンジであった。様々な礼拝に出席し、教義について学び、何

が一緒にできるのか何度か議論を重ねた。特に難題だったのが聖

餐の扱い。礼拝の中では難しいとの結論に至り、その代わりとして、聖餐の恵みを分かち合える日が来ることを祈りつつ、教会の原点である食卓を囲むスタイルで、パンの分かち合いプログラムを行った。

トークセッションでは、司式者3名に原敬子シスター(援助修道会)が加わり、宗教改革とエキュメニズム、恋愛・結婚・日本社会とキリスト者をテーマに本音トークを展開。ある登壇者はこう語る。「宗教改革の当時、ルターは34歳だった。教会関係者は、ついに若者がやってしまつたと思つたことだろう。し

かし、彼の信仰は真っ直ぐで本物だった。今回のイベントにも同じものを感じる。君たちはやってしまつた。」

各教派に枝分かれした我々だが、主のもとでは同じぶどうの木から命を与えられ、ぶどうの木につながっている存在である。我々に与えられた使命があるとすれば、「えきゅぷろ」の輪を、教派として時代を越えて広げていくことなのだろう。宗教改革600年のその時に向かつて、今回関わった青年一人ひとりが、与えられたぶどうの実を、愛をもって育んでいくことを祈つてやまない。

献堂のよび 日吉教会

斎藤忠碩

日吉教会は、神さまからの祝福をいただき、1962年からこの日吉の地で宣教の歩みを始めました。そして今日まで宣教55年の歳月を歩んでまいりました。

日吉教会の旧礼拝堂は、東京・中野区鷺宮にあった神学校の礼拝堂を1969年に移築したもので、建物自体は1935年(昭和10年)に建築されたものです。また、教会のステンドグラ

スは1907年(明治40年)に建築されていた米田ネブラスカ州フリーモントファーストルーテル教会で使用されていたものであり、1953年(昭和28年)の改築の際、取り外され、日本ルーテル神学校に寄贈され、神学校の鷺宮から三鷹への移転に伴い、日吉教会に寄贈されたものです。

この間教会員より献金が献げられ、教会独自で隣接の土地の購入が出来、駐車スペースを確保出来ました。この大きな喜びでした。このように多くの恵みを戴いて、福音宣教のわざに励んでまいりました。

そして、今日まで多くの方々がイエス・キリストの福音に触れ、キリストに繋がるとなり教会は成長してまいりました。皆様の祈りとお支えに感謝いたします。

しかし、先の東日本大震災により耐震診断をしたところ、耐震の数値から見て教会・牧師館は危険でもあり、今後建て替えることも含めて検討した方がよいという診断結果が出ました。そのような時、教会員より教会建築のために多額の献金が献げられました。ここに教会員の力を結集して新しい日吉教会が誕生することになりました。これまで旧礼拝堂で使用してきた聖卓・説教台・聖書台・ステンドグラスはこれから

も使用していきます。日吉教会の主題として「イエス・キリストにあり、やすらぎの泉となり人へ」を伝えていく教会を目指してまいります。皆さまのお祈りとお支えをお願いいたします。

JELAカンボジア・ワークキャンプ2018

2007年に派遣開始以来これまで4回、毎回6〜8名のボランティアを派遣し、学校建築関連の奉仕を行いました。カンボジアの歴史、文化や人々の活動にも触れながら、ボランティア活動と現地の人々との交流などを行います。

- 日程：2018年2月14日(木)〜24日(土)11日間
- 対象：キャンプ実施時点で18歳以上の健康な方(高校生不可)
- 募集人数：5名〜10名程度(人数調整のため選考があります)
- 内容：現地の団体の活動支援と交流、学校校舎修復や設備設置、キリング・フィールド等の歴史的に著名な土地や博物館訪問など。
- 参加費：13万円
*海外旅行傷害保険、パスポート申請の費用、説明会会場(JELA)と出発・帰国時の集合場所(成田空港)から居住地までの交通費や、前泊・後泊する場合の宿泊費用については、上記の参加費とは別に全額個人負担となります。
- 申込方法：申込書に必要事項を記入の上、JELAカンボジア・ワークキャンプ係まで、
メール：(jela@jela.or.jp)、またはFAX：(03-3447-1523)にてお送りください。
- 締切：11月30日(木)必着(12月4日までに参加の可否をお知らせします)
参加者説明会：2017年12月9日(土)13:00〜17:00
場所はJELAミッションセンター2F(東京都渋谷区恵比寿1-20-26)

※参加者のご都合により日程等を変更する場合があります。
※その他、注意事項などの詳細は、以下のURLからご確認ください。
<http://http://jelanews.blogspot.jp/2017/09/2018.html>

